関西文化学術研究都市の計画理念と都市形成史に関する研究

大和ハウス工業　正会員　○岩橋 芳郎
立命館大学　フェロー会員　村橋 正武

1. はじめに

関西文化学術研究都市（以下、学研都市）は、関西学術研究都市調査懇談会（以下、奥田懇談会）における理念提言を契機に都市整備が始められ、研究機関の立地、都市基盤施設整備が進められた。しかし、奥田懇談会の理念提言より 30 年弱が経過し、社会経済動向や学研都市への社会的要請の変化など、学研都市を取り巻く環境が激変している。今後、学研都市が都市としての総合力を強化するための方向性を示すためには、過去の都市形成プロセスを総括し、課題整理を図る必要がある。これより、本研究では学研都市における計画理念の整理と課題を提示することを目的する。

2. 学研都市における計画理念の整理

本研究では、①奥田懇談会策定期（1978 年～1984 年）、②セカンド・ステージ・プラン（以下、SSP）策定期（1994 年～1998 年）、③サード・ステージ・プラン（以下、TSP）策定期（2004 年～）を都市形成プロセスの段階として、各々の段階における計画理念を整理する。

①奥田懇談会策定期（表1）

奥田懇談会では、学研都市における学術研究のあり方と都市整備のあり方が提言された。学術研究のあり方では、研究テーマ、研究形態・活動、文化について提言された。

1）研究テーマについては、元々の課題認識であった人類的課題の解決のための研究テーマの他に、望ましい社会像の構築、新しい産業構造の構築、日本文化の正しい理解という4つの理由より、資源・エネルギー、食糧問題、情報文化、将来産業、人間科学、将来都市、南北問題及び日本文化の8つの研究機構が提案された。また、各研究機構の組織のあり方として、各研究機構が研究活動の調整的役割を担い、縦割り型であった研究活動を学際的な研究活動を可能とし、総合的な取り組みがなされるべきであるとされた。

2）研究形態・活動のあり方では、これまでの縦割り型研究形態・活動、海外の研究機関との連携不足等の課題より、横断的な性格、国際的な性格が必要であるとされた。このため、研究活動の企画、調整、組織化を担う新たな組織として、コア機構が提案された。

3）文化のあり方では、新たな文化の創造のため、世界的アピールと文化交流による世界貢献の観点からの文化的発信基地が必要であるとされた。

一方、都市整備のあり方では、学研都市が目指すべき都市像としてパイロット・モデル都市が検討された。パイロット・モデル都市とは、1）学術研究のフィールドとしての都市、学術研究のための2）学術研究機能と居住機能を併せもつ都市、3）21 世紀を指向した都市の3つの概念を併せもつ都市である。

1）学術研究のフィールドとしての都市とは、複雑で多様な要素をもつ学術研究に対して、豊かな実証実験フィールドを提供し、その成果をフィールドへ投入する都市である。

2）学術研究機能と居住機能を併せもつ都市とは、単に学術研究や関連産業に携わる人々のみならず、その家族や他地域への通勤者、既成市街地の住民等が日常生活、教育、レクレーション等の快適な生活が行える居住機能を併せもつ都市である。

3）21 世紀を指向した都市とは、単に 21 世紀を想定した願望的なビジョンにとどまらず、都市が抱えている切実な問題や、今後予想される諸問題を解明し、問題解決のためのアプローチを発見するための現実の試行モデルとしての都市である。

②SSP 策定期

都市整備が進み 1994 年に都市びらきを迎えた中で、

表 1：奥田懇談会における計画理念

学術研究のあり方	研究テーマ		資源・エネルギー、食糧問題、情報文化、将来産業、人間科学、将来都市、南北問題、日本文化といったテーマを学際的・総合的に取り組む
	研究形態・活動		横断的・国際的な研究形態・活動
	文化		文化分野の研究活動、文化的発信基地
都市整備のあり方	パイロット・モデル都市	学術研究のフィールド	実証実験都市
		都市機能	学術研究機能と居住機能
		未来指向性	21 世紀を指向した都市

キーワード　関西文化学術研究都市、計画理念、都市形成
連絡先　〒525-8577　滋賀県草津市野路東 1-1-1　立命館大学　ＴＥＬ077-566-1111

今後 10 年の学研都市の方向性を明らかにするために、SSP が策定された。SSP では人類的課題の解決という奥田懇談会の理念を継承した上で、1) 文化の創造と交流、2) 新しい学術・研究の推進、3) 21世紀のパイロット・モデル都市の建設の3点を学研都市の理念として挙げた。

③TSP 策定期

SSP の策定後 10 年が経過し、新たな 10 年の学研都市の方向性を明らかにするために TSP が策定された。TSP の学研都市の理念では、1) 文化学術研究の新たな展開の拠点づくり、2) 世界及び我が国の文化学術研究の発展、国民経済の発達への寄与、3) 未来を拓く知の創造都市の形成の3点を挙げている。また、TSP において特に重視すべき点として、1) 学研都市の総合力の強化、2) 交流連携を通じて一体性の確保、3) 都市運営に重点を置いた取り組みの3点を挙げている。

3. 学研都市における計画理念の流れと課題

学研都市における計画理念は、表2、3に示すように、学術研究のあり方と都市整備のあり方に集約される。学術研究のあり方では、研究テーマ、研究形態・活動、文化について、都市整備のあり方では、学術研究のフィールド、都市機能、未来指向性の3点にまとめられた。これらの計画理念は、奥田懇談会の理念を根底に、社会経済状況や社会的要請の変化に伴って、再構築されてきた。例えば、奥田懇談会の提言以降、経済のグローバル化、持続可能社会の実現といった社会経済動向や社会的要請の変化によって、新産業の創出、持続可能社会に向けた研究テーマの設定といった視点が付け加えられている。

また、今後、奥田懇談会の理念を踏襲するとともに、新たな時代背景への対応を進める観点からの学研都市における課題を表4、5に示す。具体的には1) 計画理念の実現に向けた課題と2) 新たな時代背景を踏まえた課題の2点に分けて整理した。例えば、学研都市全体としての研究テーマの明確化、国際的アピールが可能な研究成果の創出、母都市やクラスター、関空とのアクセス性向上、外国人への居住環境整備といった課題が挙げられる。

4. おわりに

今後は、計画理念の実現と新たな時代背景を踏まえた具体的実践が必要である。また、今後の学研都市を取り巻く社会経済環境を見通し、学研都市全体を包括的に捉えた都市運営の強化が必要である。

5. 参考文献

・関西学術研究堵市についての提言、関西学術研究都市調査協議会

表 2: 学術研究のあり方に関する計画理念の整理

	研究テーマ	研究形態・活動	文化
奥田懇談会	・人類的課題解決に向けた学際的・総合的な研究テーマ	・横断的かつ国際的な研究形態・活動	・文化的発信基地
SSP	・芸術文化、環境の研究テーマ	・新産業創出 ・国際的な活動 ・先導的大学機能	・文化力の向上を先導する文化創造と中枢の形成
TSP	・食糧・エネルギー・環境等のサスティナビリティ・サイエンス	・国際研究開発拠点の展開 ・産学官連携・ベンチャーの支援育成	・海外の歴史文化遺産の保存・活用による貢献 ・文化拠点高度化

表 3: 都市整備のあり方に関する計画理念の整理

	学術研究のフィールド	都市機能	未来指向性
奥田懇談会	・実証実験都市	・学術研究機能と居住機能	・省資源・省エネルギー都市など
SSP	・パイロット・モデル都市の取り組み成果の発信と都市問題の解決	・新産業機能の追加 ・情報・通信基盤整備 ・生活者・居住者の視点に立ったまちづくり ・都市センターの形成	・文化創造の中枢 ・環境と共生、調和 ・国際交流モデル ・安全・安心都市
TSP	・自然環境の保全・緑とのふれあい ・創造性を発揮する環境づくり ・体験し学ぶ新たな観光の推進	・良好な住まい・街並みの形成 ・外国人居住者に向けた都市環境の整備 ・学術研究機能と生産機能の融合 ・研究開発型産業施設と生産施設の立地促進	・未来を拓く知の創造都市の形成

表 4: 計画理念の実現に向けた課題

計画理念		課題
学術研究のあり方	研究テーマ	・自然科学と人文科学・社会科学の融合 ・学研都市全体としての研究テーマが不明確
	研究形態・活動	・国際的アピールが可能な研究成果の創出 ・関西のみならず世界のサイエンス・シティとの連携や交流
	文化	・文化施設整備から文化活動・交流の支援へ ・学研都市外との文化交流の推進
都市整備のあり方	学術研究のフィールド	・特区認定などの規制緩和 ・実証実験の担い手・調整役の確保
	都市機能	・より高度な都市機能の整備
	未来指向性	・未来都市像に向けての整備手順の明確化

表 5: 新たな時代背景を踏まえた課題

新たな時代背景		課題
学術研究のあり方	新産業創出のあり方	・研究機能と生産機能の一体化 ・産学連携による研究活動 ・中堅・中小企業、ベンチャー企業の立地や支援強化
	国際研究開発拠点の展開	・学研都市における研究活動の成果の発信
	持続可能な社会の実現に向けた取り組み	・学研都市全体で取り組む研究テーマの明確化と共通認識
都市整備のあり方	都市基盤整備の促進と低未利用地の活用	・母都市、クラスター間の連携強化 ・低未利用地の有効活用
	国際化を目指した都市整備	・関西国際空港とのアクセス性の向上 ・外国人居住者に向けた居住環境整備
	クラスター整備のあり方	・学研都市内の文化学術研究地区と周辺地域との一体的な都市整備
	都市運営のあり方	・学研都市全体を見据えた都市運営体制 ・都市運営体制の集約化 ・広域行政区の実現